

■ R. シュトラウス / 交響詩「ドン・ファン」Op.20

R. シュトラウスは早熟の天才で、リストらが創始した交響詩のジャンルで若い頃から傑作を残した。1888年作曲の「ドン・ファン」も1895年作曲の「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」もおとぎ話や神話、伝説、文学に題材を求めた初期の特徴をよく示している。

事実上、彼の最初の交響詩となった「ドン・ファン」は、14世紀以前までさかのぼるスペインの好色家の伝説を題材に、ドイツの詩人ニコラウス・レーナウが発表した抒情詩に基づいている。スコア冒頭に掲げられた詩はこんな風に始まる。「いとも魅力的で美しい女性なるものの／はかり知れない広大な魔の国よ／悦楽の嵐の中を進み／最後の女性の口に接吻して死ぬのもいい」。ここには単なる色事師ではなく、永遠の理想を追求し、決して満たされることのない悲劇を生きる人物が描かれている。

自由なソナタ形式で、強烈な生命力を放つ華やかな導入部に続いて、行動的な主人公を表す第1主題、理想とする女性たちを描いていく優美な主題群、ドン・ファンの失望が滲んだ第2主題と続き、展開部ではそれらの主題が交錯して、意気消沈したかに見えるが、再び女性遍歴の旅へと向かう情熱で高揚する。しかし、それも突然、失意の曲調に転じ、不協和な楽想で死という悲劇を暗示して、静かに終わる。

音楽学者 白石美雪

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。

【楽器編成】フルート3（ピッコロ持ち替え1）、オーボエ2、イングリッシュホルン、
クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、
トランペット4、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、シンバル、
グロッケンシュピール、ハープ、弦五部 ※スコア上の表記